

ASAHIKAWA CITY

職員採用案内
パンフレット



2024.2

旭川市総務部人事課

旭川市のご紹介

この度は旭川市の職員採用に関心を持っていただきありがとうございます！

旭川市は、令和5年11月から新庁舎が開庁し、昨年迎えた市制100年からさらに新たな一歩を踏み出しました。

先人から受け継いだ旭川市の礎をさらに発展させていくために、開拓の精神を受け継ぎ失敗を恐れずに「挑戦」する組織へと生まれ変わっていかねばなりません。

現在のウィズコロナ・アフターコロナの時代には前例にとらわれない新たな発想、柔軟な視点が求められており、そのために旭川市はあなたの力を必要としています。

旭川市では人物重視での採用を実施しています。また、働き方も見直しながら、その人らしく自己実現できる市役所を目指しています。

旭川市職員は市民がより安心して暮らせるまちづくりのため、人の役に立てる素晴らしい仕事です。一緒に新しい旭川を創りましょう！

人口32万人の中核市である旭川市は、大雪山連峰に源流をもつ石狩川とその支流の忠別川、美瑛川、牛朱別川の大きな4つの川が市街地を貫流し、四季折々の豊かな自然と、医療や福祉、教育、文化などの都市機能が調和する北北海道の拠点都市です。

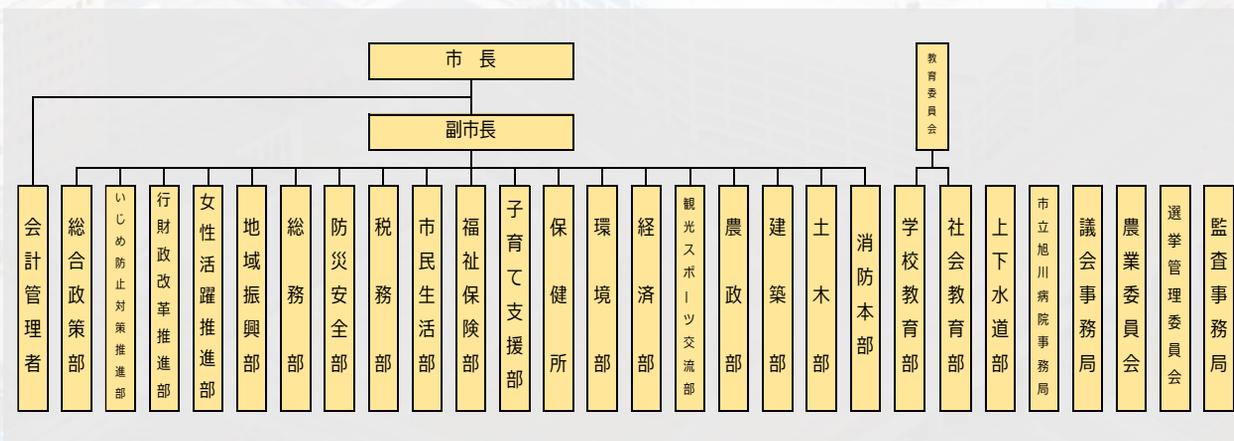
北海道のほぼ中心に位置することや地震等の災害が少ないことから、生活拠点としての安定性が抜群であるほか、交通の要衝として人やものが集積する地理的な特長も生かし、これらの特長をベースとした住民の方々や職員の取り組みによって、今も発展を続けています。

行動展示で全国的に注目を集める「旭山動物園」をはじめ、「旭川家具」「ラーメン」「地酒」といった観光資源や地場産品、「北の恵み食べマルシェ」「旭川冬まつり」といった季節的なイベントも多く、一年を通して賑わいが絶えないまちです。

もっと詳しく！
旭川市の市勢要覧は
こちら



旭川市職員は市民の生活を支えるため、多くの人や組織と協力してまち全体を動かすことを仕事としています。職員は3～4年周期の人事異動によってさまざまな業務を経験しながら、広い視野を持って、まちを維持・発展させる仕事に挑戦しています。



28の部局（令和5年4月1日現在）で構成される旭川市役所では、税、子育て、福祉、教育などあらゆる分野で市民の声に耳を傾け、まちの抱える課題の解決に向けた取り組みを行っています。

旭川市職員としてくらす



自然と都市機能が調和するまちでのくらし

旭川駅の北側には「あさひかわ北彩都ガーデン」があり、旭川駅の周辺で豊かな自然を感じることができます。そこでは乗馬体験やカヌー、サップ体験等、様々なイベントも開催されており、中心部で楽しみながら自然を感じることができます。

市内から車で数十分の距離に、夏には登山ができるような山々が並んでいたり、冬にはスキーやスノーボード、スケートなどのウィンタースポーツを存分に楽しめる環境に恵まれています。

北北海道の中心都市でのくらし

北海道のほぼ中央に位置しているため、休日は道内各都市、観光スポットへのアクセスが容易です。

北海道の自然豊かな環境を生かし、道内各地でアウトドアの趣味をするのにはうってつけで、キャンプや釣りなど様々なアクティビティを楽しむことができます。

本市の職員の多くも、本物の自然に親しむかわら、道内はもとより旭川空港を利用して道外に足を運ぶなどそれぞれの楽しみを見つけながら旭川市で過ごしています。



デザイン都市旭川でのくらし

旭川市は2019年にユネスコデザイン都市の加盟認定を受け、国際的に旭川のデザインの文化が認められました。

「旭川デザインウィーク」では市民の方にデザイン楽しさや感動を伝えるイベントも開催されています。

また、デザイン都市旭川を創るために、旭川市ではCDP（チーフデザインプロデューサー）と協力して業務を進めています。官民一体となって、デザインにも力を入れているまちの職員として働くことができます。

おいしい食の宝庫でのくらし

全道一の収穫量を誇る旭川市の米をはじめ、旭川市を代表する3つの蔵元「男山」「高砂酒造」「合同酒精」と「大雪地ビール」が個性ある酒造りを行っています。

北北海道の中心都市という立地も生かし、道内各地から集められるおいしい食を堪能することができます。

市総合庁舎は市内中心部に位置しているので、旭川市最大の歓楽街であるサンロク街へのアクセスもよく、日ごろの疲れをおいしい食やお酒で癒すことができます。



01

大学卒の部 事務(一般行政)

観光スポーツ交流部 観光課

森 大樹 もり・だいき

北海道石狩市出身

2018年入庁

自分のやりたいことを見つける



「実はやりたいことがなかったんです」

公務員を目指したきっかけ

元々は教員を目指していましたが、でも、実際に就職するにあたって、いろいろな情報を調べたりするうちに、自分が本当にやりたい仕事ってなんだろうと思ってしまっただけ。そんなときに、漠然と市職員を選びました。やりたいことはなかったのですが、教員とは公務員という共通点があったので自然と選択肢に上がりました。

旭川市を選んだのは大学時代を過ごして住みやすいと感じたからです。

実際に入庁してみても

正直、市役所のイメージって税金の仕事、窓口対応、福祉の仕事くらいしかなかったんです。入庁後に配属されたのは保護課で生活保護を担当するケースワーカーの業務を4年間しました。生活の困りごとの相談を受けて「ありがとうございました」と言われたり、担当した方が就労につながったときは市役所に入ってよかったと思うことが多かったんです。それでも自分がやりたいことって見つからなかったんですよ。やりがいは感じる職場だったけど、これがやりたいことかと言われると「うーん」となるような。

現在、配属されている観光課では、旭川市内の人を呼び込むための観光プロモーションの業務を行っています。

旅行代理店の方に旭川市に来てもらえるようなツアーを作ってもらおうように交渉したり、「旭川冬まつり」のようなまちを元気にする地域づくりのためのイベントも企画したりします。今の仕事は前の仕事よりもやりたいことに近いような気がしています。

その時々によれることを考えて実行できるというのが自分のやりたいことかもしれないですね。

市職員としてのやりがい

実は自分の生活に役立つ制度って色々あるんだなと感じます。これは市役所に入ってみてわかったことで、福祉の分野でも税の分野でも観光の分野でも、もともと市民の方だったり、家族や友人に教えてあげたいと感じています。



「今はやりたいことがたくさんあります」

今、就職活動をする中で自分がやりたいことってなんだろうと考えている方、たくさんいると思います。

無理に見つける必要はないと思います。実際に仕事をして感じることもたくさんあるし、今やりたいと思っていることが本当に自分に向いていることなのかかわかりません。

市職員であれば、市民の役に立ちたいという思いさえあれば本当にやりたいことがなかったり、わからなくても入庁後に見つけることができます。私もそんなひとりです。そんな私でも入庁してからやりたいことがどんどん増えていきます。

私と一緒に業務を経験して、本当にやりたいことを40年かけて見つけてみませんか。

大学卒の部 事務(一般行政)

経済部 経済交流課

上林 芽 かんばやしめい

北海道上川郡剣淵町出身

2016年入庁

自分の得意なことを見つける



「得意なことがないのがコンプレックス」

公務員を目指したきっかけ

家族や友人にも自治体職員が多くて、働き方のイメージがしやすかったのもともと公務員になりたいと考えていました。

大学を卒業した後は北海道で就職したいと思っていて、出身は旭川市ではないのですが、旭川市内の高校に通っていたので、住みやすさとか、身近に感じる人が多い、旭川市職員を目指すようになりました。

入庁してから現在まで

現在は入庁8年目を迎え、3か所の部署を経験してきました。現在所属している経済交流課では、主に地場産品の販路拡大に取り組んでいます。道外の量販店に物産展の提案をしたり、国内外のバイヤーに向けた地場産品の商談会を開催したりしています。催事の仕事を日本のいろいろな都市に行ったときに旭川市との文化や街並みの違いを感じると、より旭川市の良さがわかるような気がします。

最初に配属された国民健康保険課では、国民健康保険料の計算をするような業務や、市民の皆さんからの保険料や健康保険の制度に関する問合せに対応する業務をしていました。

そのときは、窓口で市民の皆さんの声を聞いて対応するというような業務を行っていたので、「市役所」といえば想像されるような仕事でしたね。

そのあとは、都市交流課という部署で、国際交流の推進や実際に姉妹都市を訪れて旭川市や日本の文化を広めたりというような業務をしていました。私は外国語を話せるわけじゃないので、異動したときは心配でしたが、周囲の方々に助けていただきながら業務に取り組むことができたので、特別な能力や知識がない方でも配属された部署で力をつけながら業務を行っていくことができると思います。

市職員としてのやりがい

やはり、旭川市の地場産品の販路拡大に関する業務に取り組んでいるので、「旭川市いいね!」と言ってもらえると嬉しい気持ちになりますし、それをやりがいにして働いています。



「得意なことを見つけられるように」

旭川市職員には自分の強みを仕事に活かしている方や目標に向かって日々尽力されている方など、尊敬できる人がたくさんいます。

私はもともと得意なことがなくて、これまで3つの部署を経験していますが、自分の強みとか、得意なことを見つけないことができていないです。

この分野だったら上林さんが得意だよねと言われるような、私が今尊敬している職員の方々のように、頼られる職員の一ひとりになりたいと思っています。

自分がそうであるように、市職員を目指す皆さんの中にも自分自身の強みがわからなかったり、強みがないことがコンプレックスに感じている方がいるかもしれません。

そのような方でも、いろいろな業務を経験できる市役所であれば、その経験から強みを見つけることができると思います。

03

社会人の部(UIJ) 事務(一般行政)

議会事務局 議事調査課

岡本 諭志 おかもと・さとし

大阪府堺市出身

2017年入庁

住みたいまち全国No.1を目指して



「旭川で暮らすとってはいなかった」

前職はなにをやっていましたか

大手化粧品会社で、全国を舞台に販売プロモーションや人材育成に関する仕事を行っていました。結婚や子育てなどライフステージの変化に伴い、家族が暮らすまちを「住みたいまち全国No.1」にしたいと思うようになりました。そこで、まちに最前線で関わる仕事に市役所なのではないかという認識で市役所の試験を受験することになり、縁があつて旭川市に入庁することになりました。出身は大阪府なので旭川市で暮らすことになるとは思っていませんでした。

市役所に入庁してからの業務は

最初に配属されたのは農政課でした。そこでは、旭川市の基幹産業である農業を振興するためのイベントやスマート農業機械の導入支援などを行っていました。

入庁4年目には政策調整課で総合的な政策の立案調整、総合計画の推進や重要施策に関する各部署との調整業務を担いました。

現在、所属している議事調査課では、議会が円滑に運営できるように、議員の方々をサポートする仕事を行っています。

これまでで一番印象に残った仕事

市制施行100年を迎えたときに、記念事業として行った記念式典やスタルヒン球場での旭川100フェスティバルヒンスタジアムといった野外音楽フェスが印象に残っています。

初の試みも多い中、短期間で企画から運営までをやり遂げた仕事で、自分の企画が形となり、来場した市民の方が沸き立つ姿を見たときの達成感は一とおおでした。

市職員としてのやりがい

「まちに最前線で関わる仕事に市役所」という想いは変わっていません。私個人の働きなんて小さなものですが、市職員一人ひとりが積み上げてできる全庁としての仕事は、まちのにぎわい作りには直結すると自負しております。



「旭川市を暮らしやすいまちへ」

入庁前には窓口業務しかイメージがありませんでしたが、市の職員には驚くほど多種多様な業務があります。

3〜4年間で人事異動があるためその道のプロフェッショナルになることは難しいかもしれませんが、どんな担当業務でも想いを持って取り組めば様々な課題が見えてきますし、結果が付いてくる仕事だと思えます。

その結果ひとつひとつが将来につながり、住んでいるまちをよくすることができれば自分の家族や子供たちも安心して暮らせる環境を目指すことができます。そういった自分の暮らしに直結する仕事ができるのは旭川市職員の素晴らしいところだと感じています。

04

大学卒の部 社会福祉

福祉保険部 保護第1課

工藤 一真 くどう・かずま

北海道帯広市出身
2020年入庁



生活を保障し自立を助ける

私は、前職で民間の児童福祉施設を経験して入庁しました。転職してからは生活保護のケースワーカーとして勤務4年目になります。生活保護を担当するケースワーカーは、家庭訪問などを通じて、困りごとの相談に応じたり生活の維持向上を図るための助言などを行います。自分の力で生活していけるように、支援が必要な方に、介護サービスや障害サービスの利用を支援したり、社会参加の場の提供や、仕事探しをサポートするようさまざまな支援を行っています。

民間の福祉施設を経験したからこそ

もし、何か困ったことや支援を必要としている人は行政の支援を頼りにして相談することが多いと思います。そういった意味では、福祉が必要な人の最初の関わりは市役所をはじめとする行政機関になると思います。私が経験した施設は、ひとつの支援に特化しているので、その分野の中でやれる幅は広いですが、その範囲を超えた支援はなかなかできにくい状況にありました。

前職では最初から関わっていればこういうことができたかもしれないと思うこともあったので、市役所の業務は支援が必要な人に最初から関わるといところで魅力を感じます。

市役所の福祉制度といっても幅広いので、いろいろな支援制度を勉強しながら、その人にあった支援ができる職員になりたいと思っています。

ライフプランを立てやすい職場

最近、2人目の子供が産まれて育休を取得したのですが、周りの職員も協力してくれるので、積極的に育休取得を選択することができました。転勤もないのでライフプランは非常に立てやすいですね。

「市民の福祉を支える」

福祉サービスを広く届けたい

大学で福祉の分野を専攻していました。福祉に関する制度や福祉サービスの実態を学ぶ中で、制度を知らない人や利用するためにどのような手続きが必要なのかわからない人など、福祉サービスが行き届いていない部分があると感じました。

そういった意味で、制度を運用している市役所であれば、直接市民の方々のニーズを聞きながら支援ができていると思っています。

市役所の福祉職が向いている人は

市民の方に対して法律や制度の説明をするとき、なかなか納得いただけなかったり、うまく伝わらないことがあります。

市役所には、日々幅広い年齢や生活歴の方々が困りごとを抱えて相談にいらっしやいます。どのような方々に対しても、常に相手の立場に寄り添って考え、支援を進めることができる人は、市役所の福祉職として必要な人材であると思います。

私は今、福祉の業務だけではなく、予算・決算業務や施設の管理業務もしています。人事異動により福祉以外の幅広い業務を経験できるところも、福祉現場とは違う市役所の特徴であり、経験できて良かったと思います。

ゆかりのない土地で働く

私は、出身や通っていた学校が旭川市ではないため、市職員になって初めて旭川市で生活することになりました。同期や年齢の近い職員も多く、馴染みのなかった土地で働くことに心細さは感じませんでした。旭川市は、おいしいグルメや飲食店が多く、市内・近郊で自然に触れることのできるアクティビティを体験できるところが魅力的だと感じています。

05

大学卒の部 社会福祉

子育て支援部
旭川市子ども総合相談センター

湯浅 麻世 ゆあき・まよ

北海道空知郡南幌町出身

2017年入庁



06

大学卒の部 技術(土木)

土木部 土木建設課

酒元 美月 さかもと・みつき

北海道旭川市出身

2023年入庁

まちの基盤をつくる



「市民の方々が快適に暮らせるように」

公務員を目指したきっかけ

もともともものづくりという分野には興味がありました。決め手になったのは、某ジブリ映画の内容が、都市開発と自然の共生というテーマで、自分もそう思ったことを考えながら仕事をしていきたいと思っていました。

その中で、地域で暮らす方々の話を直接聞いて仕事を行えるのが市職員だと考えていたので、公務員を目指しました。

実際に業務を経験して

入庁してからまだ1年も経過していませんので、今は仕事を覚えるので精一杯という感じです。

配属された土木建設課は、道路、橋梁、河川などの社会基盤に係る工事の設計・監督が主な仕事で、私は生活道路の部分を担当しています。

下の写真は、実際に工事施工前と施工後の写真です。目に見えて老朽化が進んでいたところが綺麗に舗装されているのがわかると思います。

このように、設計や監督業務をした道路の工事の完了後、ガタガタしていた路面が滑らかになったり、区画線が見やすくなったり、実際に現場を見てよくなったのがわかったときに、やりがいや達成感を感じます。

自分の仕事の成果が目に見えるのが技術職のよさかなと思います。

実際に入庁するまでは、市役所の組織はお堅い人が多いという印象だったのですが、実際にはそんなことはなかったです。

確かに法令遵守というところはしっかりしないといけないという堅さはあるんですが、職員は皆さん優しいので、楽しく働かせてもらってますね。元々、地元が旭川市なので、土地勘もあったりして働きやすい環境ですね。

これからの仕事の目標は

私はまだ入庁してから1年も経っていないので、今後、さらに多くの業務を経験していくことになると思います。

これから、いろいろな現場を経験していく中で、その現場に応じた設計などをできるようにしたいと思っています。



07

大学卒の部 技術(建築)

総務部 庁舎建設課

渡辺 智宏 わたなべ・ともひろ

北海道上川郡東神楽町出身
1999年入庁



まちづくりをプランニングする

私が入庁したときは、ちょうど北彩都あさひかわ整備事業が行われていて、大きくまちを変えるような大事業に技術分野から関わりたいと考えて公務員を目指しました。

現在所属している庁舎建設課では、令和5年度に開庁した新庁舎の建設に関わる業務を行っていました。旧総合庁舎の開庁から63年が経過し、次の庁舎建設は数十年ないことを考えると非常に良い経験ができたと感じます。

20数年の市役所生活で感じること

一番印象に残っている仕事は、設計から関わった動物園の大型施設(きりん舎・かば館)が完成して子供たちの歓声につつまれているのを見たときですね。自分の子供にも自慢できるし、旭川市ならではということもあって、嬉しかったですね。

あとは、2011年に発生した東日本大震災で被災地に派遣され、応急仮設住宅の検査業務に携わったときは、「公務員だったから」「公務員にしかできない」仕事をできたのでやりがいを感じました。

市役所の建築分野の業務は、調整する立場に立つことが多いので、調整力を持っている人はこの仕事に向いているんじゃないかと思います。

自分の経験を後輩に伝えていく

旭川市役所には、創造力や行動力のある職員が多いんじゃないかと感じます。

私がこれまで経験した多くのことを後輩にうまく伝えられるようになりたいですし、今後もまちを変えていくような大きな事業に携われるようになりたいと考えています。

「くらしの環境を整備する」

公平な視点で仕事がしたい

民間企業だとどうしても利益を求めるために仕事をしないといけないと思います。そういったことに少し疑問をもっていった中で、社会のために公平な視点を持ちながら仕事ができるということに魅力を感じて入庁しました。

仕事とプライベートを充実させたい

前職でちょうど海外赴任をする可能性が高くなり、家族との時間を大事にしたいということも考えました。

入庁して、前職よりも給料は下がりましたが、実際に休暇が取りやすい環境ですし、子供を看病するための子看休暇など年次有給休暇以外の制度も充実しています。

旭川市は医療が充実しているので、子供が急に熱を出しても、複数の総合病院をはじめ、近所の個人病院にかけこむことができます。

私はスノーボードが趣味で、30分くらい車を走らせれば行けるスキー場が複数あるのも魅力です。旭川市近隣は雪質も素晴らしく、「ドライパウダー」の環境の中で日常的にスノーボードを楽しむことができます。冬は毎週末、家族みんなでスキー場に行くのが楽しみになっていますね。

全員が活躍できる職場

旭川市役所に入ってびっくりしたのは、学歴だったり、民間の経験に関係なく同じ仕事を任されているところでした。

どうしても、技術職だと業務経験を積んでいく必要はあると思いますが、全員が活躍できる職場というのは良い環境だと感じます。

08

大学卒の部 技術(機械)

建築部 建築指導課

大西 健 おおにし・たけし

和歌山県出身

2013年入庁



09

資格職の部 技術(保健師)

保健所 保健指導課

尾野 由里奈 おの・ゆりな

北海道上川郡剣淵町出身
2022年入庁



公務員を目指したきっかけ

保健師の勉強をしていく中で、公衆衛生を学んでいくには地域を見るのが重要だと感じました。一番住民の生活に近いところで健康を支えて守っていく仕事がしたいと思って公務員を目指しました。多様な分野で経験を積むことができるというのも魅力でした。

保健師として現在の業務は

国民健康保険に加入している人で、特定健診を受診した方に保健指導をする業務などを行っています。あまり自分自身の健康に関心を持っていなかった人に興味を持ってもらえたり、実際に健康状況の改善につながったときには非常にやりがいを感じます。

また、運動による健康増進のため、ウォークラリーのイベントの企画や準備などの業務もしています。たくさんの方が楽しみながら運動をしている姿を見たときは達成感がありました。

保健師として入庁したのですが、いろいろな職種の同期がいて、業務以外でも勉強になることがたくさんあります。

顔を覚えてもらえるような保健師になりたい

保健師という存在自体知らない方が大勢いらっしゃると思いますし、実際にどんな仕事をしているかも知られていないと思います。

そんな中で、地域に行って気軽に健康の相談ができたり、何かあったら思い出してもらって相談に来てくれるような保健師になりたいと思っています。

「資格を活かして活躍する」

公務員を目指したきっかけ

大学生のころから、家庭と仕事の両立ができる環境で仕事がしたいと思っていました。そんな中で福利厚生がしっかりしていることが自分の理想と合致したこともあり、公務員獣医師を目指しました。

獣医師として現在の業務は

動物愛護センターでは、保護された動物の治療や手術などといった、臨床業務を行っています。実際に獣医師という資格を活かした業務を行うことができているので、充実感があります。

元々いた衛生検査課というところでは、通常している業務とは大きく異なりますが、ちょうどコロナ禍ということもあり、「新しい生活様式」の取組紹介動画を作成するなど、あまり獣医師の資格とは関係ないような業務をしていました。そういったことは、人事異動がある市役所ならではのことで、刺激が多かった業務のひとつですね。

これからの目標は

市役所はいろいろな立場の職員がいるので、その人たちとコミュニケーションがとれて職場全体の雰囲気をよくできるような職員になりたいと考えています。

旭川市では、新規採用職員が一堂に会して研修を行っているのですが、幅広い職種の人とのコミュニケーションをとることができます。

ほとんど知り合いがいない中でしたが、そういった広い交友関係を築くことができましたし、これからも築いていきたいと思っています。

10

資格職の部 技術(獣医師)

保健所
旭川市動物愛護センター

服部 賢吾 はっとり・けんご

広島県出身

2015年入庁



職員採用試験のご案内

学歴や職務経験などに応じて5つの試験区分があります。多様な人材を確保したいと考えているため、出身地域等にかかわらず、「**人物重視**」による積極的な採用を行っています。

		試験区分		試験案内	申込締切	1次試験	2次試験	3次試験	合格発表			
前期日程	大学卒	事務	一般行政 社会福祉	3月初旬	4月上旬	5月	6月	7月	7月下旬			
		技術	土木・ 建築等									
	社会人	事務	一般行政					8月	5月	7月	8月	9月
		技術	土木・ 建築等									
	資格職	技術	保健師等		5月	7月	8月					
後期日程	短大卒 高校卒	事務	一般行政	7月初旬	7月下旬	9月	10月	11月				
		技術	土木・ 建築等									
	障害のある方	事務	一般行政									

- 大学卒の部 大学卒の30歳以下の方向け
- 社会人の部 職務経験 5年以上の方向け
- 短大卒の部 短大卒の28歳以下の方向け
- 高校卒の部 高校卒の26歳以下の方向け

大学卒・社会人の部の1次試験は **全員と面接**

大学卒・社会人の部の2次試験はSPI3を利用しており **日本各地で受験可能**

大学卒・社会人の部は **教養試験なし**

※ 応募職種、受験資格、試験日程等の詳細については、必ず試験案内をご確認ください。

求める人材

旭川市では、職員一人一人が目指し、保ち続ける理想の姿として、次の人物像を挙げています。

市民目線に立った
協働志向

チャレンジ精神旺盛な
未来志向

多様性を認め合う
チームワーク志向

市役所の仕事は多岐にわたり、まち全体を動かそうとしたときに、自分の力だけではうまくいかない場面も多くあります。そのため、仲間はもとより市民からも理解や協力を得ることが必要不可欠であることから、相手の立場になって考え、行動できる力が重要です。

勤務条件・給与

- ①勤務時間 8:45から17:15まで (参考) 行政職初任給
- ②休日 土日祝日, 年末年始
- ③休暇制度 年次有給休暇20日
特別休暇(夏期休暇, 結婚休暇,
産前産後休暇, 配偶者出産休暇,
忌引休暇等)等
- ④勤務場所 主に旭川市内
(市内各種施設職場勤務の場合あり)
- ⑤給与 右表のとおり
(令和5年4月1日現在)

区分	初任給	手当
大学卒	196,200円	期末手当 勤勉手当 通勤手当 住居手当 寒冷地手当 等
短大卒	179,100円	
高校卒	166,600円	

※ ①~②は部署により異なる場合があります。

※ 採用前の職歴等に応じて加算されます。

福利厚生・各種活動

- ①都市共済 北海道都市職員共済組合による短期給付(医療保険), 長期給付(年金), 各種助成事業(契約宿泊施設補助等)を行っています。
- ②健康管理 定期健康診断, 人間ドック, 女性検診, ストレスチェック等を実施しています。
- ③福利厚生会 旭川市職員福利厚生会による慶弔関係, 施設利用助成, 生活資金貸与, 健康増進(レクリエーション)助成, 保険事業, 各種行事等を実施しています。
- ④同好会活動 野球, ソフトテニス, バレーボール, 卓球, バスケットボール, バドミントン, ゴルフ, ボウリング, 将棋等多くの同好会が活発に活動しています。

勤務状況

職員が働きやすいと思える環境を整備するため, 業務の効率化や風通しの良い職場づくりに積極的に取り組んでいます。

- 超過勤務の状況 平均 **14.7** 時間(月)
- 年次有給休暇の取得状況 平均 **12.8** 日(年)
- 育児休業取得率 男性 **35.6** %, 女性 **100.0** %

※ 令和4年度実績により, 一人あたりの平均を算出しています。

お問い合わせ

〒070-8525 北海道旭川市7条通9丁目48番地
旭川市役所総務部人事課 職員採用担当

TEL : 0166-25-5445 (直通)

Mail : jinji_ikusei@city.asahikawa.hokkaido.jp

